平成29年度

学校評価（最終報告）

太宰府市立学業院中学校

平成29年度

Ⅰ　自己評価書（最終報告）

1　確かな学力の向上・・・・・・・・・・・・・・・・　1
2　豊かな心の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
3　組織運営の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
4　教育環境の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
5　配慮を要する生徒への指導・・・・・・・・・・・・　5
6　地域･保護者との連携・・・・・・・・・・・・・・　6

太宰府市立学業院中学校

1　確かな学力の向上

本年度の目標
○学習規律の徹底、授業改善の研究・研修、着実な学習習慣の育成等による確かな学力の向上に努める。 ○生徒の実態に沿った指導計画の作成や、「めあて」と「まとめ」のある授業、「とびうめルール」の徹底、「学力向上プラン」等の活用による授業の工夫改善に努める。 ○学力向上プランの教科・学年等の共通理解・共通実践による実効実践に努める。

大項目	中項目（評価者）	小項目と具体的方策（前期）	評価方法	前期評価			成果と課題	評価結果を受けた改善策（後期）	評価方法	後期評価			次年度の改善の方向
確かな学力の向上	○学習規律の確立 （研究主任　関）	【チャイム黙想】 チャイムが鳴り終わるまでには着席黙想し、落ち着いて授業に臨ませる。 「とびうめルール」の徹底	生徒アンケート 3.7 教師アンケート 3.82	④3 2 1	4 ③ 2 1	③	○生徒会活動において、2分前着席を呼びかけており、チャイム席は徹底できた。黙想も重ねできている。 ○「とびうめルール」強調週間を示し、学校全体で取り組むことができた。 ●教師も教室で確実にチャイムを聞くことができよう、早めの行動を促す。 ●「とびうめルール」は日常的に意識させ、ルールの徹底を継続させる取組が必要である。	・教師が率先してチャイム席指導に取り組む。 ・生徒会活動と連携し、「とびうめルール」を日常的に意識させ、ルールの徹底を継続するために、「とびうめルール強調週間」を設定し、指導の徹底を図る。	生徒アンケート 3.7 教師アンケート 3.71	④3 2 1	4 ③ 2 1	③	○基本的な授業規律が成立しているか、定期的に学年や学級で自己評価する。 ○学校全体で授業規律に対する意識を高め、学校全職員・全生徒の共通理解を図る。 ○「チャイム席の徹底」「とびうめルール」は日常的に意識し、励行できるよう、継続した指導を行う。 ○教師の情報交換を密に行う。 ○教師が率先垂範する。
		【学習態度】 授業中は「とびうめルール」を意識して学習に取り組ませる。 「とびうめルール」の徹底	生徒アンケート 2.9 教師アンケート 3.08	4 ③ 2 1				・「授業アンケート」から出た課題を教師が意識し、教科担当によって授業態度に差がないよう、十分に留意する。また、管理職や学年主任、生徒指導部等で、定期的に授業を参観する。	生徒アンケート 2.9 教師アンケート 3.24	4 ③ 2 1			
	○学力向上プランの実践 （研究主任　関）	【基礎基本の定着】 基礎・基本の定着を図るため、確認テスト、セミナー、自学ノート、週末課題等の学習に取り組ませる。	生徒アンケート 3.5	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		○自学ノートは、どの学年においても提出率は比較的、高い。提出の徹底がある程度、できている。 ○学力向上プランや体力向上プランを作成し、計画を立てることができた。 ●自学ノートの学習内容に個人差が見られた。家庭学習が苦手な生徒に対する教師のよりよい支援を検討する必要がある。 ●学力向上プランや体力向上プランを教師が十分に意識することができていない。	・自学ノートにおける学習内容の個人差を減らすために、家庭学習が苦手な生徒に対して、学習内容を指示するなど、改善点を具体的に伝える。	生徒アンケート 3.4	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	③	○教科部会の充実 ・教科部会において、学力向上の具体的な方途をしっかりと協議する。 ・生徒の実態に応じた数値目標を設定し、目標達成に向けた教育活動を行う。 ・学力向上プランや体力向上プランの効果的な活用を図る。 ○年度当初に学力向上プランと体力向上プランを全職員に提示し、年間を通して効果的な活用ができるように、周知徹底を図る。
		【学力、体力向上プラン】 学力向上プラン、体力向上プランを意識して授業に取り組む。	教師アンケート 2.92	4 ③ 2 1				・教師が日常的に学力向上プランと体力向上プランを意識するよう、職員会議や職員朝礼、日案等で啓発を図る。また教科部会の中で各プランがどの程度達成できているか、教科主任が確認する。	教師アンケート 2.84	4 ③ 2 1			
	○校内研修の充実 （研究主任　関）	【校内研修】 校内研修会を通して、授業づくりや指導の在り方の共通理解を図ることができている。	教師アンケート 3.28	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		○今年度は、研究発表会があることもあり、研究主題を意識した授業実践(全員授業公開)をすることができた。 ○各教科部会において、研究主題をもとに、よりよい教科指導のあり方を協議することができた。 ●研究主題に基づき、本時一時間の指導は充実させたが、単元全体を通してみると、まだ不十分な教科が多い。 ●新学習指導要領実施に向けた準備は不十分であった。	・研究発表会に向けて、研究主題を意識した授業実践に努める。 ・研究発表会の授業者以外の教師も研究推進を行い、常に研究主題を意識した授業改善を図る。	教師アンケート 3.32	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	③	○校内研究の推進 ・思考力・判断力・表現力を育成する授業づくりを図る。 ・単元構成の見直しを図り、重点単元を設定し、授業改善を通して研究推進していく。 ・全員公開授業を実施し、より多くの授業を参観できる体制を整える。 ○主題研究と一般研修のバランスを取り、様々な知識を身に付ける。
		【授業研究】 新学習指導要領の趣旨をふまえた授業づくりの研究ができている。	教師アンケート 2.84	4 ③ 2 1				・新学習指導要領と解説を準備し、随時、閲覧することができるようにする。 ・他校の研究発表会等に参加し、研鑽を積む。	教師アンケート 3.03	4 ③ 2 1			
	○「定期考査計画表」の活用と家庭学習の定着 （研究主任　関）	【定期考査計画表】 「定期考査計画表」を有効に活用している。	生徒アンケート 3.1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		○学年ごとに工夫した「定期考査計画表」を使用し、計画作成や点検の時間を確保して指導や助言を行うことができた。 ○自学ノートの実施状況や定期考査計画表から、家庭学習状況を把握し、目標達成に向けた指導を行うことができた。 ●定期考査計画表に個人差が見られた。計画内容が乏しい生徒に対して教師の具体的な支援が必要である。 ●学年の家庭学習目標時間を達成できない生徒が見られた。家庭にも協力を求めることが必要である。	・家庭学習が十分ではないと見られる生徒に対して、計画の立て方を示したり、学習方法や内容の助言をしたりして、改善点を具体的に伝える。	生徒アンケート 3.1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	③	○家庭学習のよりいっそうの定着を図るため、計画表を有効活用し、具体的助言等を随時行う。 ○自学ノートを活用し、日頃からの家庭学習の定着を図る。 ○自学ノートを毎日担任が点検する際、気になる生徒については、勉強の仕方をアドバイスし、毎日内容の濃い学習になるように支援をする。
		【家庭学習】 1日に1年生60分以上、2年生90分以上、3年生120分以上、家庭学習をしている。 （塾の時間を含む）	生徒アンケート 2.9 保護者アンケート 2.8	4 ③ 2 1				・学年の家庭学習目標時間を達成できない生徒を減らすために、家庭学習が疎かになっている生徒からその理由を聞き取る。経過を観察し、状況が改善しない生徒に対しては、具体的な家庭学習の課題を提示したり、改善策を助言したりする。	生徒アンケート 2.9 保護者アンケート 2.8	4 ③ 2 1			

2　豊かな心の育成

本年度の目標
○道徳の時間を通して、自己の生き方の自覚を深め、道徳的実践力の育成に努める。 ○キャリア教育を導入し、体験を通した諸活動の充実を図り、望ましい職業観・勤労観の育成に努める。 ○人権尊重の教育を基本におき、いじめ防止や人権・同和教育の推進を重点的に図る。また、人権感覚の高揚と部落問題学習の工夫・改善を図る。 ○集団づくりを柱にして「基本的生活習慣の育成」と「教育相談活動」を充実させることで、自己理解・自己実現を目指す指導に努める。

大項目	中項目（評価者）	小項目と具体的方策（前期）	評価方法	前期評価			成果と課題	評価結果を受けた改善策（後期）	評価方法	後期評価			次年度の改善の方向
豊かな心の育成	○道徳教育の推進 （道徳教育担当 中村）	【道徳の時間の指導】 道徳の時間の指導では、生徒が見方や考え方、感じ方を振り返り、確かめる学習ができるように努める。	教師アンケート 2.63 生徒アンケート 3.4	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	○各学年でローテーション授業を組み、自作教材等を活用して、道徳の時間の授業実践を行うことができた。 ○「いじめ問題」や「人権学習」をどの学年も実施し、人権感覚の育成に努めた。 ●資料の効果的活用について、活用類型等をもとに、研修する必要がある。 ●「私たちの道徳」の有効活用ができていない。	・「私たちの道徳」をHRや・総合の時間、行事の前後等で有効活用できるようにしていく。 ・人権同和教育部会と連携して、人権学習をさらに進めていく。	教師アンケート 2.71 生徒アンケート 3.4	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	○「私たちの道徳」や「かがやき」、「あおぞら」を使った道徳の授業の実践を図る。 ○人権・同和教育部会と連携して人権学習の充実を図る。 ○年間指導計画を見直し、年間を通して、学校生活の時期に適した価値項目で授業が行われるようにする。 ○新学習指導要領実施・特別の教科道徳を見通して、準備をしていく。
		【資料の活用】 道徳の時間の指導では、「心のノート」や副読本、「かがやき」「あおぞら」及び自作教材を効果的に活用する。	教師アンケート 2.26	4 3 ② 1				・副読本等が十分に活用されなかったので、再度、指導計画を練り直し、有効活用を図る。 ・全教職員に道徳教育の必要性を理解させ、道徳の授業のみならず学校の教育全体で道徳教育が行われるようにする。	教師アンケート 2.39	4 3 ② 1			
	○人権・同和教育の推進 （人権同和教育教育担当：森本）	【人権意識】 何気ないことばでも、相手を傷つけたりすることがあるので、言葉についてはいつも意識している。	生徒アンケート 3.4	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		○「太宰府市人権・同和教育実践交流会レポート」を全員が書き、職員全体で実践を交流することができた。 ○みなみ支部での諸研修会に多くの職員が参加することができた。 ●相手の気持ちを十分に考えることができず、心無い発言をする事例が少し見られた。	・諸研修を通して、人権・同和教育について教師自らがさらに学びを深め、人権感覚を磨く。 ・教育活動全体を通じて人権教育を推進する気持ちを常に持つ。	生徒アンケート 3.3	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	○教師の人権感覚が一番の課題であることが判明したので、まずは教師がさらなる研修に励む。 ○教育活動全体を通じて、生徒の人権感覚が高まるよう、常に指導に励む。 ○特別支援教育部会と連携し、障害者問題に係る学習内容づくりに取り組み、人権教育を中心にした学習を系統的に実施していく。 ○みなみ支部等、外部機関と連携を進める。
		【部落問題学習】 市人権センターとの交流会等を通した部落問題学習の充実を図ることができている。	教師アンケート 3.13	4 ③ 2 1				・人権教育部会と支援加配等が連携し、随時、職員に情報伝達ができるようにする。	教師アンケート 3.13	4 ③ 2 1			
	○生徒指導の充実 （生徒指導主事 山口）	【生徒指導体制】 毎週の生徒指導部会や学年部会で生徒の情報交換をきめ細かく行い、対策を講じることができている。	教師アンケート 3.29	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	○定期的に生徒指導部会を開催し、情報交換を行い、対策を講じることができた。また、生徒指導部会の内容を翌日の運営委員会に提案し、情報を広げることができた。 ○あいさつ、黙々清掃はとてもよくできており、外部の方からも好評価を得た。 ●校外でのあいさつや登下校の状況が十分に出来ていないところがある。	・今後も、週1回の生徒指導部会を行い、情報交換を充実させる。 ・生徒指導が学年や教師によって偏りや差が出ないように留意する。 ・教育相談の充実を図る。	教師アンケート 3.37	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	○定期的に行う生徒指導部会で、各学年の情報交換を充実させたことによって、学校全体の問題行動に対して組織的に対応することができているので、次年度も継続して実施する。 ○生徒指導部会の内容を翌日の運営委員会ですぐに共有できることがとてもよかったので、これも継続していく。 ○問題行動の未然防止のためにも、全教育活動を通して積極的生徒指導の推進を図っていく。
		【あいさつ・そうじの励行】 心開くあいさつ、心磨く黙々清掃に努める生徒の育成を図る。	生徒アンケート 3.7 3.5 保護者アンケート 3.5 2.5	4 ③ 2 1				・生徒会活動を中心に、あいさつや清掃の必要性について説き、心を育て主体的なあいさつや清掃ができるようにする。 ・全職員の共通理解を図って指導を行う。	生徒アンケート 3.7 3.5 保護者アンケート 3.5 2.5	4 ③ 2 1			
	○豊かな体験の充実 （総合学習担当 上野）	【人間関係づくり】 生徒同士の触れ合いを通した人間関係づくりのための活動を行うことができている。	教師アンケート 3.16	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		○体育会では、全校生徒が力を合わせ団結し、それぞれすばらしいものをつくることができた。活動を通して、生徒同士の信頼関係が、より深まった。 ○3年生は、高校体験学習を通して進路に対する意識が高まった。2年生は、職場体験学習を通して、正しい職業観、勤労観を養うことができた。また、自分の将来について考えるよい機会となった。1年生は、自然教室での取り組みを通して、協力や思いやりといった気持ちを高めることができた。	・各行事の事前事後の取り組みを十分に行い、教育効果を高めるようにする。 ・生徒が主体的に活動できる合唱コンクールとなるよう生徒の支援を行う。	教師アンケート 3.24	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		○学校行事（体育会・文化発表会等）を通して、異学年での交流等幅広い人間関係づくりができているので、より発展させる。 ○太宰府市の地域（歴史や文化）に学び、地域に貢献する教育活動を総合的な学習の時間等を活用して取り組んでいく。 ○各学年のキャリア教育の充実を図る。
		【体験学習】 体験（見学）活動を通して、望ましい将来の生き方についての見方や考え方を育てている。	生徒アンケート 3.3 保護者アンケート 3.2	4 ③ 2 1				・文化発表会や体験学習で学んだことをまとめる掲示物を作成し、計画的に掲示をする。	生徒アンケート 3.2 保護者アンケート 3.2	4 ③ 2 1			

3 組織運営の充実

本年度の目標
○主幹・主任・主事の学校経営参画意識と指導力の向上を目指し、毎日の主任会議、週1回の運営委員会の充実を通して、学校運営の推進を図る。 ○分掌部会の機能化を図り、学年部会、教科部会等をさらに活性化させる。

大項目	中項目（評価者）	小項目と具体的方策（前期）	評価方法	前期評価	成果と課題	評価結果を受けた改善策（後期）	評価方法	後期評価	次年度の改善の方向
組織運営の充実	○主幹・主任・主事の学校経営参画意識の高揚 （教頭：島田）	【主任会】 毎日の朝の主任会において、指示の徹底や具体的対応の確認が図られている。	教師アンケート 3.74	④3 2 1	○毎朝の主任会で各学年の状況報告、情報交換がよくできている。 ○教務担当主幹教諭が作成している毎日の予定表で、日程確認や指導方法の確認ができている。 ○運営委員会では、各分掌からの提案がなされ、審議されている。 ●学年への伝達が不十分なことがある。 ●会議の時間はいくらあっても足りない。より効果的・効率的な会議運営を図らなければいけない。	・主任会での連絡・調整を継続していく。 ・主任会の審議を受けて、学年部会に伝達する際、十分に情報を伝え、指導方針等の意思統一を図れるよう、工夫する。	教師アンケート 3.71	④3 2 1	○主任会・運営委員会が機能しているので現状を継続・発展させていく。 ○主任会・運営委員会と各分掌等の連絡を密にする。 ○作成した諸資料を(サーバーに)保存し、共有財産とし来年度に活かす。
		【運営委員会】 各分掌の業務や計画について、運営委員会で調整されている。	教師アンケート 3.45	4 ③2 1		・運営委員会の審議内容を深めるため、事前の連絡・調整を密に行う。 ・必要に応じた、分掌部会の時間を確保し、十分に審議できるよう配慮する。	教師アンケート 3.37	4 ③2 1	
	○分掌部会の充実 （教務担当：出田）	【分掌部会】 校務分掌と学年部会が連携をして組織的な取り組みを行っている。	教師アンケート 2.92	4 ③2 1	○各分掌において、よりいっそうの改善のための工夫がなされた。 ○学年所属の分掌担当者が学年部会の中で提案を行う業務の経の流れが定着してきており、学年部会の中で横へと広がってきている。 ●分掌内での業務の負担が、代表者に偏っている分掌が見られる。 ●多忙のため、分掌部会の時間を十分確保することが難しいことがあった。	・定期的な分掌部会を設定し、時間確保に努める。分掌部会では、しっかり計画を立てることと、事後の成果と課題を明確にすることの2つを柱とする。	教師アンケート 3.00	4 ③2 1	○校務分掌の見直しを図り、様々な取組を各分掌から提案できるようにする。 ○分掌部会の時間確保に努める。 ○各分掌で検討した内容を運営委員会・学年部会・職員会議の場で承認し、取組へとつなげる。
		【分掌部会の活性化】 自分の分掌内容を把握し、常に改善の視点を持って教育活動を行っている。	教師アンケート 3.05	4 ③2 1		・年度当初に配付、確認する「各分掌の業務内容」を周知、徹底し、各分掌における教師一人一人の業務（責任）内容を把握させる。 ・行事等の職員会議への提案の仕方について確認する。	教師アンケート 3.08	4 ③2 1	
	○学年部会の充実 （学年主任：國分・石橋・江崎）	【学年部会】 毎週の学年部会で、学年の課題に対する具体的対応を明確にし実践している。	教師アンケート 3.29	4 ③2 1	○学年部会では十分に時間をとり、学年の課題や指導方針等を共通認識して、実践していくことができた。 ○日程確認や連絡等、学年で日案等を活用し、ズレがないように努めた。 ○学年部会で、各学級の状況を学年全体で確認し、学級経営や生徒指導、行事における指導等に生かすことができた。 ○今後の日程を把握しながら、更に見通しを持ち部会の設定をする。 ●学年の中でも負担が一部の教師に偏る傾向が見られる場面があった。	・学年部会が重要な役割を果たすため、今後も学年部会の充実を図る。 ・学年部会で審議した内容を主任会や運営委員会で簡潔に報告できるようにする。	教師アンケート 3.24	4 ③2 1	○学年部会において、様々な意見を出すことができるような学年の雰囲気作りを、今後も継続していく。 ○学年部会では、各分掌から提案をさせ、分掌の機能化を図る。 ○学年部会に提案する各係の事案は、事前に学年主任が指導助言を行い、修正したものを提案させ、会議の効率化を図る。
		【学年主任】 学年主任は、学年部会や担任との面談を通して各学年の学級経営状況を把握している。	教師アンケート 3.66	④3 2 1		・今後も継続的に実践し、教師・生徒の状況を把握していく。 ・学年内でしっかりと共通理解を図り、共通実践していく。	教師アンケート 3.63	④3 2 1	

4 ③2 1

4　教育環境の整備

本年度の目標
○清掃の時間の充実を柱として、全職員・全生徒で環境整備（整美）に努める。 ○学級活動や保健体育の時間の指導を核として安全教育を実施し、命の大切さを理解させる。

大項目	中項目（評価者）	小項目と具体的方策（前期）	評価方法	前期評価			成果と課題	評価結果を受けた改善策（後期）	評価方法	後期評価			次年度の改善の方向
教育環境の整備	○清掃指導の徹底 （清掃指導担当 井上）	【清掃時間】 「黙々清掃」の徹底に努める。	生徒アンケート 3.5	④3 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	○「黙々清掃」について、学年当初の職員会議で、共通理解を図ることができた。全校生徒が大変、熱心に清掃に励んでおり、外部からの評価も高い。 ○美化コンクールには、多くのクラスが意欲的に取り組むことができた。 ●道具が足りない清掃区域があった。	・生徒会の専門委員会活動に位置づけ専門委員会を中心に呼びかけを行い、よりよい活動になるようにする。 ・隅々にさらにこだわって「黙々清掃」ができるように指導を行う。	生徒アンケート 3.5	④3 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	○よりいっそう「黙々清掃」に取り組めるよう、意義目的の周知徹底を図る。 ○清掃を通して、心の育成が図れるようにする。 ○整美委員会活動と連動して取り組み、生徒の意識の中に「黙々清掃」をしっかりと定着させる。
		【整美委員会】 「黙々清掃」の取り組みを定着させる。	教師アンケート 3.42	4 ③ 2 1				・教師が率先して清掃指導を行うことで、整美委員会を支援する。 ・美化コンクールへの意識が高まるように、委員に呼びかけをさせる。	教師アンケート 3.32	4 ③ 2 1			
	○掲示板や教室環境及び言語環境整備の充実 （学年主任：國分・石橋・江崎）	【学年掲示板】 学年掲示板は、生徒作品を掲示するなど、掲示物の充実を図っている。	教師アンケート 3.29	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	○時期に応じて、生徒の活動の様子や生徒作品・感想文等を、掲示することができた。 ○学年によって、進路関係であったり、職場体験学習に関係するものであったり、教科学習で取り組んでいるものであったりと、生徒の状況に応じた掲示物を作成することができた。 ●時折、はがれたまま、破れたままの掲示物があった。	・整美、図書・文化委員会等の委員会との連携を更に図っていく。 ・学校生活での気持ちを高めたり、学習意欲を向上させたりするような掲示物の工夫に努める。	教師アンケート 3.37	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	○整美、図書・文化、学習各委員会が連携を図り、学年掲示板作成や、教室環境整備にあたる。 ○各委員会と教職員が連携して意図的な活動を行う。 ○棚の整理、学習用具の持ち帰り等については、専門委員会との連携を図り、担任任せにせず、授業毎に教科担任で声をかけるなど、学年職員全員で指導を行う。
		【教室環境整備】 生徒の居場所づくりに活きる教室環境の整備（整美）に努める。	教師アンケート 3.39	4 ③ 2 1				・生徒の成長の姿が見られるような内容の掲示に努める。 ・学習、整美委員会と連携して、学習道具持ち帰り、棚の整理等、環境整備に努める。	教師アンケート 3.39	4 ③ 2 1			
	○校舎内外の安全点検の徹底 （保健主事：坂中）	【安全点検】 月１回の安全点検の実施など、教師の危機管理意識を高めている。	教師アンケート 3.32	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		○多くの職員が、意識を持って、安全点検を実施した。 ●安全点検で挙がった項目は、校務員さんに修繕してもらったものが多い。しかし、校舎そのものが古く、修繕不可能なものも多数ある。太宰府市に修理を依頼するが、予算の関係等で、修理してもらえないものも多数ある。学校安全のためにも、早期の修理を太宰府市にお願いしたい。	・教師による安全点検をおこない、安全管理や環境に対する意識を高める。 ・部活動生による戸締まり当番の折、顧問も点検して回り、教師自身の危機管理意識を高く。	教師アンケート 3.32	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	2 1	○年3回の安全点検を継続して実施し、危険箇所の改善を図ると共に、教師の危機管理意識を向上させるよう、啓発を行う。 ○生徒の危機対応能力の育成を目指した指導の在り方を分掌内で検討し、共通理解に基づき、生徒への点検結果報告を行う。
		【保健体育委員会】 清掃区域を中心とした施設の安全面を点検させている。	教師アンケート 3.63	④3 2 1				・委員会活動でも、生徒たちが自分たちで点検することで、生徒の安全意識の向上を図る。	教師アンケート 3.58	④3 2 1			
	○安全・防災教育の推進 （保健主事：坂中）	【防災教育】 防災訓練等を通して、災害時の生徒の危機回避能力の育成に努めている。	教師アンケート 3.53	④3 2 1	4 ③ 2 1		○防災教育では、企画、提案、実施と周到な準備がなされ、生徒にしっかりとした避難訓練を実施することができた。 ○ふれ愛講演会や暴力団排除教育、また保護司さんを招いての講演会等を実施することができた。 ○保護者と連携して下校パトロール等の体制が整っている。	・地震対応の避難訓練を行い、避難経路の確認をする。 ・防災関係等の報道があったときは、記事等を職員に配付し適宜学校を上げて指導し、意識の日常化を図る。	教師アンケート 3.61	④3 2 1	4 ③ 2 1		○保体委員の常時活動として、定期的に避難経路を確認するようにする。 ○地域の防災訓練等と連携した取り組み（地震の際の引き渡し訓練等）を企画・立案し、実行する。 ○交通安全教室を実施し、自転車の正しい通行ルール・マナーの遵守を理解させ実践させる。
		【命の大切さ】 道徳・学級活動等を通して、生命尊重の意識の高揚や非行防止教育等の充実を図っている。	生徒アンケート 3.3 教師アンケート 3.32	4 ③ 2 1				・道徳や学級活動の時間を活用し、生命尊重の意識の高揚を図るようにする。 ・養護教諭と連携を取りながら、計画実施していく。	生徒アンケート 3.4 教師アンケート 3.16	4 ③ 2 1			

5　配慮を要する生徒への指導

本年度の目標
○特別支援教育については、各教科、生活単元学習、作業的な学習、校外学習など、多様な学習機会を提供し、学習の習慣を身に付けさせる。 ○校内特別支援教育推進委員会を設置し、生徒の支援についての進捗状況を的確に把握し、問題解決に努める。 ○不登校生徒については、校内の生活支援対策委員会を中心に学年、保護者及び関係者並びに関係機関との連携を強化し、指導の充実を図る。

大項目	中項目（評価者）	小項目と具体的方策（前期）	評価方法	前期評価			成果と課題	評価結果を受けた改善策（後期）	評価方法	後期評価			次年度の改善の方向
配慮を要する生徒への指導	○特別支援教育の推進 （特別支援教育コーディネーター：安本）	【特別支援教育推進委員会】 委員会を定期的に開催し、支援（特支学級の生徒・通常学級の支援が必要な生徒）の現況を把握するとともに、支援の充実を図っている。	教師アンケート 3.13	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	○校内特別支援教育委員会において、支援を必要とする生徒についての情報交換を綿密にすることで、具体的な支援方法・内容等を共有することができた。 ●個別の教育支援計画、個別の指導計画の評価、改善を十分にすることができなかった。 ●前期は行事に追われることが多く、一人ひとりを十分に見ることができない時もあった。	・校内特別支援教育委員会や学年部会、生徒指導部会等、生徒の情報交換の場における協議内容を職員で共有できる体制づくりを行う。	教師アンケート 3.13	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	○特別支援教育コーディネーターを中心に、校内特別支援教育委員会を推進していく。 ○学年部会、生徒指導部会等との連携を図る。生徒に関する情報は、全職員で共有する。 ○外部機関「つばさ学級」、「市通級指導教室」等との連携を密にする。 ○全職員が日頃から、生徒の小さな変化を見落とさないように意識を高める。
	○教育相談 （特別支援教育コーディネーター：安本）	【生徒の状況把握】 学校生活や生活ノート（自学ノート）を通して、生徒の状況を把握すると共に、計画的に教育相談を行っている。	教師アンケート 3.34	4 ③ 2 1				・学校生活の様子やHR、生活ノートや行事後の反省用紙の記入等、様々な場面で子ども達の小さな変化を見落とさないよう、日頃から心がける。	教師アンケート 3.47	4 ③ 2 1			
	○不登校生徒等へのきめ細かな対応 （専任補導：白石）	【不登校生徒への対応】 家庭との連絡を密に行い、生徒や保護者に対してきめ細かな対応を行っている。また養護教諭、SC、ST等と連携し改善に努める。	教師アンケート 3.32	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		○担任やSTが家庭と連携し、登校を促したり、生徒の様子について連絡を取り合ったりすることができた。 ○専任補導、SC、ST、SSW、養護教諭によるケース会議を開催し、不登校・不登校傾向の生徒一人一人に対する情報共有をすることができた。 ●民生委員や様々な外部機関等との連携が不十分であった。 ●一部の教師のみの関わりになってケースもある。学校全体での組織的な取り組みを行っていく。	・不登校生徒・不登校傾向生徒については、マンツーマン方式の取組を中心に学年、学校全体での支援を行う。	教師アンケート 3.24	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		○STの配置によって、不登校生徒及び不登校傾向生徒へのきめ細かな支援を進めることができており、次年度もSTの継続配置を前提として、さらなる効果的な支援体制づくりに努める。 ○ワラビー教室の指導のあり方について、全職員で共通理解を図る。 ○不登校生徒に関わるSCやSSW、ST、その他外部機関等との連携を深め、様々なケースに対応できる指導体制作りを進める。 ○SCやSSWとの定期的なケース会議を設定し、情報交換を進めていく。
		【関係機関との連携】 保健室、ワラビー教室、SC、ST、SSWやつばさ学級等と連携して、対応の充実を図っている。	教師アンケート 3.29	4 ③ 2 1				・不登校解消に向け、関係機関等とのさらなる連携強化に努める。	教師アンケート 3.18	4 ③ 2 1			
	○生活支援対策委員会の充実 （専任補導：白石）	【生活支援対策委員会】 学年部と連携し、個々の生徒の状況把握と対応の確認を行っている。	教師アンケート 3.18	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		○それぞれの生徒について状況を把握し、それを元に生活支援対策委員会等で指導方法等を協議することができた。 ●生徒に一番関わりのある教師のみの取組となりがちであった。学年全体やSC、ST、SSW、養護教諭等、より多くの関わりができるとよかった。	・ケース会議の中で各担任から、気になる生徒や支援が必要な生徒に対する情報を集約し、学校全体で対応できる体制を整える。	教師アンケート 3.18	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		○生活支援対策委員会や、特別支援教育委員会、学年部会、運営委員会、ケース会議等において、各生徒の状況を出し合いながら、情報交換を進めることができたので、今後もこれらの会議等を通した情報の共有を継続していく。 ○SSWと連携を図ると共に、児童相談所や子育て支援課等、外部機関との連絡相談等を強化し、個々に応じた適切な対応に努める。

6　地域・保護者との連携

本年度の目標
○家庭訪問や教育相談を実施し、生徒や保護者理解に努め、好ましい人間関係づくりを通して、信頼関係を密にする。 ○学校の教育活動について、授業参観・学級・学年懇談会や学校だより等を通して機会あるごとに啓発及び発信し、学校の説明責任を明確にする。 ○家庭と連携し、食に関する教育の充実を図る。

大項目	中項目（評価者）	小項目と具体的方策（前期）	評価方法	前期評価			成果と課題	評価結果を受けた改善策（後期）	評価方法	後期評価			次年度の改善の方向
地域・保護者との連携	○コミュニティ・スクールづくりへの理解推進 （コミュニティ担当　白石）	【コミュニティ・スクールの理解】 2年次のコミュニティ・スクールの在り方の研究推進に努めている。	教師アンケート 3.16	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	○地区別集会を行い、各地域の今年度の取組等を理解することができた。また、夏祭り等、地域行事への参加率も高まった。 ○コミュニティ・スクール担当教諭が各地区を回り、連絡調整をしたことで、地域との連携が深まった。 ●今年度のコミュニティ・スクール運営方針等が、十分に教師へ浸透していない。そのため、コミュニティ・スクールで何をしたいのか、どのような生徒を育てたいのか、共通認識されていない。	・コミュニティ・スクール担当に任せることなく、各担当教師へとつなげることで、活動をより多くの人に広げる。 ・後期地区行事への参加体制を地区担当教員で積極的に行う。	教師アンケート 3.08	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	○年度当初に、本校としてのコミュニティ・スクールの在り方や指導方針等を職員で確認する。 ○地区との打合せは、各地区担当に任せる等することで、各地区担当の意識を高めるようにする。
	○保護者との信頼関係の確立 （学年主任：國分・石橋・江崎）	【家庭連絡】 学校は必要に応じて、お子様のことで連絡をとっている。	保護者アンケート 3.3	4 ③ 2 1				・学年・学級や養護教諭、生徒支援加配、専任補導、SC、ST、SSW等と随時、連携を図りながら進めていく。	保護者アンケート 3.3	4 ③ 2 1			○SSW、校内生徒指導委員会や市要保護児童対策連絡協議会との連携を視野にいれた指導体制づくりを検討する。
	○学校だより等による積極的情報発信 （教頭：島田）	【懇談会】 PTAと連携し、学級・学年懇談会や地区懇談会の充実を図っている。	教師アンケート 3.24 保護者アンケート 3.2	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	○学級・学年懇談会や地区懇談会を実施した。多数参加し、それぞれ話し合いを深めることができた。 ○学校・学年だよりを定期的に発行し、学校の様子や指導方針、行事予定等を知らせることができた。 ○学校のホームページによる情報発信をすることができた。 ○コミュニティ・スクール掲示板の有効活用ができた。 ●授業参観に比べ、懇談会の参加率が低くなっている。保護者の参加意識はある一定以上には高まりにくかった。	・懇談会の内容をさらに深め、よりいっそうの信頼関係を築く。 ・学級・学年懇談会以外にも、家庭訪問や面談等を通して、保護者の信頼を得ると共に、保護者との連携を図る。	教師アンケート 3.32 保護者アンケート 3.2	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	○学年・学級懇談会において、学校の教育活動を詳しく知ってもらい、学校と家庭の信頼関係を築けるようにする。 ○授業参観や学年・学級懇談会、講演会等への保護者の参加促進のためにPTA役員等に働きかける。 ○授業参観の回数や内容について、保護者の意向を配慮し、検討する。
		【情報発信】 学校だよりや学年・学級だより等を通して、積極的に教育活動を地域・保護者に知らせている。	保護者アンケート 3.5	4 ③ 2 1				・前期と同様、たよりを定期的に発行する。 ・コミュニティ・スクールの取組をこれからも情報発信していく。	保護者アンケート 3.5	4 ③ 2 1			
	○「"新"家庭教育宣言」の実施等による、基本的生活習慣や家庭学習習慣等の定着 （コミュニティ担当　白石）	【朝ごはんの摂取】 普段から、規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）に努めている。	保護者アンケート 2.6 生徒アンケート 3.4	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		○小学校と連携して取り組んで行くことで、定着がすすみ、保護者への意識化が進められた。 ○「"新"家庭教育宣言」を実施することができた。 ○PTAの活動として、啓発活動をPTAが行った。	・PTAと連携し、PTAだよりに取り組みを啓発する内容を掲載し、発信していただく。 ・懇談会等での提起などで、保護者の意識を高める。	保護者アンケート 3.1 生徒アンケート 3.4	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1		○秋休みに「"新"家庭共育宣言」を実施し、一定の効果が得られたので、今後も継続して、PTAに取り組んでいただく。合わせて学校としても協力できることを探し、協力していく。 ○「太宰府市ノースマホ宣言」等の意識化を図る。
		【保護者との連携】 ノーテレビ・ノーゲームデイの実施に努めている。	保護者アンケート 2.6 生徒アンケート 2.5	4 ③ 2 1				・学級だよりや学年だより、懇談会等を通して、家庭学習の習慣化の意識を高める ・校区内PTAの小中連携を進め、ねらいの定着のための活動の工夫や連携を共に考える。	保護者アンケート 2.7 生徒アンケート 2.6	4 ③ 2 1			

平成29年度

Ⅱ　学校関係者評価書（最終報告）

太宰府市立学業院中学校

平成30年3月1日

平成29年度　太宰府市立学業院中学校　最終(後期)学校関係者評価書

◎　自己評価結果

◇確かな学力の向上について

○授業参観や来校した時の生徒の様子から、学校が落ち着いてよくなっていることがうかがえる。
この調子で学校がよくなっていってほしい。

○テストの結果を見ると、安定していると言える。全国平均や県平均を超えているが、さらなる向上を望む。

○テストの結果から考えると、授業改善は進んでいるようである。若い教師も多いと聞いているので、
これからもしっかりと研修に励んでほしい。

○授業中の雰囲気はいいようである。子ども達がもっと積極的に発表するとよい。

○家庭学習の量が少なく、目標時間に達していない学年に対して、どう取り組んでいくのか、これから期待したい。

○「授業アンケート」の結果を分析し、よりよい授業づくりを目指してほしい。

◇豊かな心の育成について

○生徒が活気に溢れており、これは学校で取り組んでいることの成果であろう。学校の取組は評価できる。

○生徒がよく挨拶をするようになった。学校だけでなく、地域でも挨拶がよくなったと聞く。子ども達はいい方向に育っているようである。心が育っていると言えよう。

○毎年のことだが、体育会と合唱コンクールの盛り上がりが素晴らしい。子ども達が一生懸命取り組んでいる姿が見られる。この取組は継続してほしい。

○道徳や人権教育の充実を図ってほしい。授業参観でも道徳や人権教育を公開してはどうか。

○「いじめ」はなかなかなくならないと思う。学校側がしっかりと取り組んで解決を目指して欲しい。

○各学年において体験学習が行われており、生徒にとってはいい体験になっていることと思う。この活動を継続・発展させていくと、さらに心が育っていくであろう。

◇組織運営の充実について

○学校長を中心に職員が一体となって取り組んでいることがうかがえる。これからも頑張ってもらいたい。

○学校全体で連携がよくできており、情報・課題の共有を図る取り組みが行われている。

○報告や連絡はよくできているようである。各分掌の数値が低いので、課題を明確にしてよりよい組織運営を行えるとよい。

○会議で入念に打ち合わせをすることが大切である。時間がないとは思うが、今のいい状態を保つためにもしっかりと打ち合わせをしてほしい

◇教育環境の整備について

○学校を訪れた時に見かける「黙々清掃」は素晴らしい。子ども達は本当に話をせずに黙々と掃除に励んでいる。
子ども達がよくなっていることがわかる。

○校内の掲示物を見ていると、生徒作品が多くなったように思われる。生徒の活動がわかり、とてもよい。
季節ごとの掲示物もあり、季節感を感じられてとてもよい。

○教室がよく整備されている。子ども達が快適に生活する環境が整えられている。

○学業院中学校の校舎は古く、所々、修理営繕が必要と思われる。事故のないように定期的な安全点検が必要である。

○火災や地震についての備えはできているようである。非常時に敏速に動けるよう、
日頃から防災意識を持ち続けることが大切である。

◇配慮を要する生徒への指導について

○これから個に応じた指導が増えてくると思われる。学校はしっかりと配慮をして指導に当たってほしい。

○学校が大好きという生徒がいる一方で、学校に来れていないとか、気になる生徒もいる。
そのような子ども達にもしっかりと目を向けて指導をしていただきたい。

○学校だけで指導が困難であれば、色々な外部機関と連携を図り、指導をしていけばよい。

○不登校生徒がなかなか減らない状態である。家庭や地域との連携が必要である。

○これからも継続して安心安全の学校づくりに励んで欲しい。

◇地域・保護者との連携について

〇コミュニティ・スクールは推進できている。学校と地域の連携は深まってきている。

〇地域行事に参加するだけでなく、役割を持って活動するようになったり、区長さんと事前に打ち合わせをするようになったりしているところがいい。これからも中学生の活躍に期待している。

〇子ども達が地域行事に参加するようになってきている。
将来、地域に帰ってくる子ども達なので、これからも地域行事への参加を増やしていってほしい。

〇保護者との連携はある程度、できているようだ。ＰＴＡとこれからも連携をし、学校を盛り上げてほしい。

〇保護者の参加率はある一定水準に達しているようだが、全く参加していない保護者もおり、
そのような保護者をこれからどう取り込んでいくかが課題である。

〇家庭教育が課題である。各家庭にどのように啓発をしていくと、効果が得られるのか。
ＰＴＡと連携した取組が必要である。

◇その他

〇コミュニティ・スクールの取組が進んでいることが、他の教育活動にもいい効果を表していると思う。
今後もコミュニティ・スクールを推進してほしい。

〇小学校との連携が課題である。中学校ブロックと言われているが、
小学校から見ると中学校の活動はわかりにくいところもある。

〇地域を巻き込んだ行事をしてはどうか。例えば、防災訓練など。

平成29年度

Ⅲ　評価結果を受けた改善計画

太宰府市立学業院中学校

平成30年3月1日

平成29年度太宰府市立学業院中学校　評価結果を受けた改善計画

【自校で改善できる内容】

○「確かな学力」の育成について

・思考力・判断力・表現力を高める授業づくりの推進を図る。

・基礎・基本の定着を図る。そのために家庭学習の指導を継続して行う。

・新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりの研究を行う。

○「豊かな心の育成」について

・道徳教育、人権教育のよりいっそうの充実を図る。

・学校行事や体験学習を通して、「豊かな心の育成」を図る。

・教師間や保護者、地域と連携し、生徒指導を充実させる。

○「組織運営の充実」について

・主任会や運営委員会を機能させ、各学年や分掌部会と連携する。

・校務分掌の見直しを図り、率先して活動できるようにする。

・学年部会で十分に協議できる雰囲気づくりをする。

○「教育環境の整備」について

・よりいっそう「もくもく清掃」に取り組めるよう、指導の充実を図る。

・生徒会の各委員会と連動した取り組みを行う。

・安全点検や防災教育の充実を図る。

○「配慮を要する生徒への指導」について

・各委員会を通して、情報交換を密にし、共通理解のもと、全職員で指導にあたる。

・ＳＣやＳＴ、ＳＳＷ、外部機関等と連携し、指導にあたる。

○「地域・保護者との連携」について

・年度初めにコミュニティ・スクールの方針を確認し、組織的に取り組む。

・学校、地域、保護者、それぞれの役割を確認し、連携して取り組む。

【地域の協力を得ながら改善していく内容】

・地域行事への参加率の向上。
・自治会長訪問による地域行事の打合せと、行事への参画。
・地域やPTAと連携した「あいさつ運動」の取組。
・定期考査前や長期休業中の学生サポーターの活用。

【教育委員会の支援を得ながら改善していく内容】

〇教育環境の整備、充実に努める。
・スクールカウンセラーやサポートティーチャー、学習支援員、SSW等の人的配置の充実。
・危険箇所等の修理営繕。
・教育備品や消耗品の充実。
・生徒用図書、教師用図書の充実。

〇教育活動の充実に努める。
・研究発表会や授業研究会、諸研修会における指導助言等の要請。
・学校行事の参観要請。

〇生徒指導の充実に努める。
・生徒指導充実のための教育委員会への支援依頼や関係諸機関との連携・情報交換。